

東通小学校4年生 村内農家で校外学習!

夏秋いちご

7月20日、東通小学校4年生が東通学の一環で、『夏秋いちご農家ドリームファーム下北』(※1)、『ブルーベリー農家奥島農園』(※2)を訪れ、村の特産について学んだ後は、摘み取りを体験しました。

この体験は、新型コロナウイルス感染症・熱中症対策を行ったうえで行われました。

※1 ドリームファーム下北:村田睦夫さん(上田屋地区)

※2 奥島農園:奥島一志さん(大和地区)



なぜ夏秋いちごというの?

村田さんの話を真剣に聞く児童たち

それは5月から11月の間に実がなり、収穫できるからだよ!

最初に訪れたドリームファーム下北では、夏秋いちごの特性や、現在の販売額などを教えて頂き、児童達は真剣な様子でメモを取っていました。

また質疑応答では、「夏秋いちごは何種類あるの?」、「ハウスはどれくらいの数があるの?」など、沢山の質問が飛び、村田さんは丁寧に答えていました。

次に訪れた奥島農園では、およそ10種類650本のブルーベリーがあり、主に“ノーザンハイブッシュ”という系統の品種を育てています。中には、“チャンドラー”という500円玉サイズの果実が実る種類もあり、児童達はレアな果



実際に夏秋いちごを試食させていただきました!

実を探しながら摘み取り体験をしました。この体験は、東通村と都市部との交流事業の一環で、例年であれば浮間小学校(東京都)5年生が村へ来て、摘み取りや植樹をしますが、コロナ禍の影響で今回はリモート中継しました。奥島農園には、浮間小学校児童が平成17年から毎年およそ10~20本の新しい苗木を植樹しているブルーベリー畑(浮間農園)があり、苗木や果実の現状も併せて報告しました。



奥島農園さん、今日は宜しくお願いします!



お土産ブルーベリーを賭けてじゃんけん大会

